地方独立行政法人　神奈川県立病院機構
神奈川県立こども医療センター

地域医療連携室だより

2021年11月
VOL.46
登録医療機関数
918件
<2021.11現在>

「幅広い視野と温かい人間性を持ち、患者の最善の利益を考える」ことができる看護師の育成

副院長 兼 看護局長　西角 一恵

2020年4月より、副院長兼看護局長を拝命いたしました西角一恵と申します。どうぞよろしくお願いいたします。小児看護を目指し新卒でこども医療センターに入職し、途中2年間だけ県立循環器呼吸器病センターで副院長兼看護局長を担いましたが、通算30数年、小児看護に携わる機会をいただいています。こども医療センターでは2011～2015年度まで地域医療連携室長も担わせていただき、地域の中で成長・発達を続けるこども達の支援を地域関係機関の皆様と共に考える学びの機会をいただきました。

こども医療センターには、『あなたの「げんき」と「えがお」のために、みんなでちからをあわせます』という「わたしたちのちかい」とされた、こどもに向けた理念があります。小児期発症の疾患は、成人期に亘り療養を続けなければならないものも多くあり、長期療養を続ける中、「えがお」や「げんき」になる理由は、こども一人ひとりで異なります。また、成長発達を続けるこどもには、多職種が協働した包括的な医療の提供が必要となります。「わたしたちのちかい」には、「一人ひとりの最善を考え、チーム医療を提供していく」という思いが込められています。看護局では、その多様性を受けとめ、最善を考えられる看護師の育成を目指し、教育理念を「幅広い視野と温かい人間性を持ち、患者の最善の利益を考え行動することのできる看護師の育成」として、これに基づき研修やOJTの計画を整えています。

こども医療センターは、神奈川県立病院機構5病院のうちの1つです。そのため機構5病院で共通の看護師育成プログラムを整備しており、5病院合同での研修のしくみもあります。成人医療を担う他機構病院の看護師との合同研修は、「大人になりゆくこどもの将来」への視野の拡大にも大きな効果があると考えています。

疾患や障害を有するこどもが、医療を継続しながらも成長・発達を続け、自分の人生を大切に考えてくれることが願いです。こども達の多様性を受けとめ、「治す医療」と「支える医療」を担える看護師の育成に引き続き取り組んでいきたいと考えています。

教育は自分への最大の学び

患者家族支援部長 兼 総合診療科医師　田上 幸治

当センターは昭和45年の創設以来、研修医（当センターではジュニアレジデント：JRと呼ぶ）を募集しています。時代の変化とともにそのニーズは変化し、どのような医師を育てるべきか？求められる医師像とは？と自問自答しながら教育に当たっています。

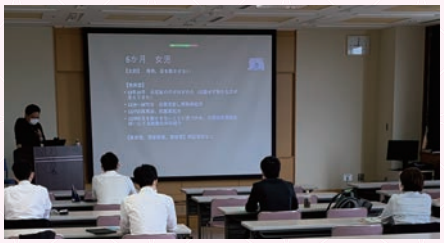
小児医療の取り巻く環境は、医療の高度化による医療的ケア児の増加、疾患概念の広がりによる親の不安、地域共同体の脆弱化と育児能力の低下、先進国のなかでも高いレベルの子どもの貧困率、不適切な養育とその連鎖など、子どもを取り巻く環境は複雑化、深刻化しています。

小児科専門医の医師像・到達目標が小児科学会から2015年4月に公表されました。「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢のもと、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの視点から到達目標が設定されています。当センターは子どもに係るすべての科、サブスペシャリティーがそろい、その専門医を育成する指導医がＪＲの直接指導に当たります。また、在宅医療、医療的ケアの必要な児の日常管理や急性期管理に関わることができます。子ども虐待や心のケアにも力を入れており、子どもの代弁者としての役割を学ぶことができます。専門医取得には必須となった論文作成の指導体制も充実しています。疾患の対象はライフステージとして新生児から成人移行期まで、クリニカルステージとして急性期から在宅医療まで、すべての小児医療を学ぶことができます。まさに、究極の子どもの総合診療医を育てる環境が整っています。

このようなことからも小児科専門医研修の人気施設となっている当センターでありますが、当センターでの研修を希望しながらも不採用となる医師がいることは断腸の思いであります。採用された医師はしっかりと学んでもらい、卒業後は他の地域や施設で学んだ知識や経験を活かし、小児医療に貢献してもらうとともに、若い医師への教育も積極的に係わってもらいたいと思います。このような教育と学びのサイクルが広がることを期待します。

【小児科セミナーのお知らせ】

若手小児科医の育成と小児科専門医の知識のブラッシュアップを図る目的で、毎年9月に開催しております。来年度の詳細は、後日お知らせいたします。



こども医療センターにおける看護師教育のご紹介

副看護局長（教育担当）兼 看護教育科科長
坂本 由紀

看護教育科（前列中央が筆者）

当院では、年間約60名の看護師を新しい仲間として迎えています。その年に養成校を卒業した新卒新人看護師、他の医療機関で経験を重ね、キャリアアップを目標に当院に入職される既卒看護師など、その背景は様々です。当院は小児専門病院であり、看護師にはより専門的な知識や技術が求められます。更に成長発達過程にある小児とそのご家族が対象となるため、いずれ大人になる小児患者さんが、地域で自立した生活が送れるよう、地域の医療機関と連携する姿勢、視点も必要となります。

看護師がこれらの必要な知識・技術、姿勢を獲得できるよう教育体制を整備し、支援する部署として、看護教育科が設置されています。看護教育科は現在主任看護師3名と、事務職員1名が在籍し活動しています。活動の一部をご紹介します。

<院内・院外研修の実施とサポート >

必要な目標を達成できるよう、キャリアラダーに沿った院内研修を計画、実施しています。神奈川県看護協会等が主催する院外研修の受講を取りまとめ、個々の看護師の課題にあった学びの場を整備し、受講を支援しています。

<小児看護エキスパートナースコースの管理・運営>

小児専門病院にふさわしい看護の充実と、質向上のための推進者育成を目的とした2年間の研修コースを開設し運営しています。2016年から県内他施設の小児領域で働く看護師も受講可能となりました。今年も約30名の院内院外看護師が参加しています。

<看護集談会の開催>

日々の看護実践の中で疑問に思う事、困難な事例に向き合った体験を事例報告や研究としてまとめ、看護局内で発表する機会として、年に2回開催しています。外部講師を招き講評もいただきながら、毎回熱心な意見交換が交わされ、日々の看護実践を振り替える機会となっています。

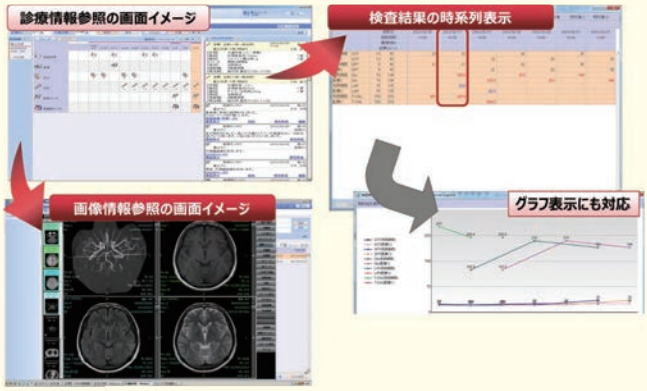
小児看護に携わる当院の看護師が生き生きと働き続けられるよう、私たちも共に学びながら取り組んでいきたいと考えています。地域の医療機関の皆様に、カンファレンスや実習等で当院の看護師がご支援をいただく機会があると思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

研修風景

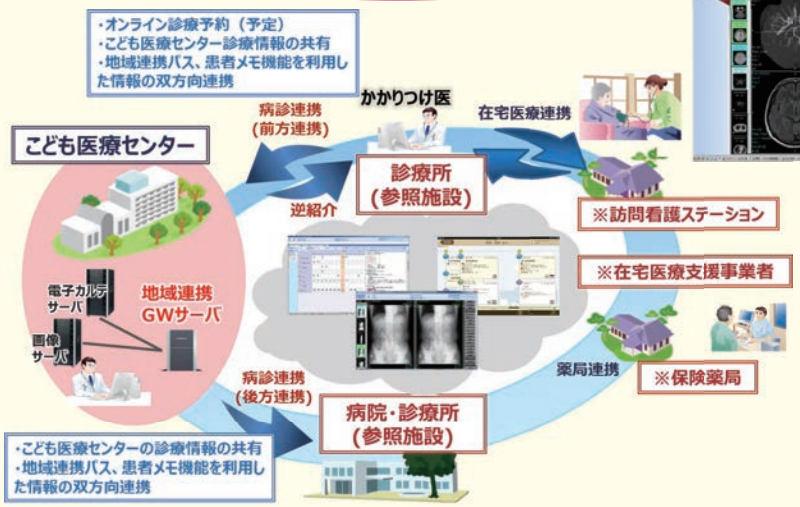
かながわこども医療ネット

神奈川県立こども医療センター　医療情報公開システム

「かながわこども医療ネット」は連携先の医療機関に、こども医療センターの電子カルテ情報（処方歴、注射歴、検査結果、画像）をインターネット経由で公開するシステムです。



かながわこども医療ネットイメージ



○連携先医療機関を随時受け付けています。申込みは地域医療携室までご連絡下さい。
○閲覧にはネットワークの連携患者さんの同意が必要になります。

【紹介予約受診システム】

一般の患者さん ＊原則 15 才以下（中学生まで）	医療機関・保健所・児童相談所等	当センターへ医師の紹介状を郵送又はFAXしてください	地域医療連携室	お手紙（受診連絡票）で受診日をお知らせします	患者さん・ご家族	受診連絡票に従って受診してください	受診
救急及び産婦人科の患者さん		当センターへ医師から電話連絡をしてください	救急診療科 産婦人科 各診療科医師	受診方法をご相談いただきます		紹介状をお持ちになり、案内に従って受診してください	

※ 紹介状の添付資料（画像やフイルム等）も紹介状と併せて事前にお送りください。
※ 紹介状用紙（料金受取人払）の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。

【当センターフォロー中の患者さんの急患受診】

まずは、かかりつけの医療機関、休日急患診療所や夜間急病センター等で受診していただき、必要に応じて**医師から当センター担当医宛に電話でご連絡ください。**医師からの連絡が難しい場合は、患者さんから直接担当医に電話連絡をして下さい。
※ 事前にご連絡をいただけない場合、受診出来ないことがありますので、ご注意ください。
※ 救急外来の診療は担当医ではなく、救急外来担当医が行う場合もあります。

【編集・発行】　地方独立行政法人 神奈川県立病院機構　神奈川県立こども医療センター　地域医療連携室
〒232-8555　神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4　TEL：045-711-2351（代）　FAX：045-710-1933
Home Page：http://kcmc.kanagawa-pho.jp